



その他の話題もウェブサイトに満載

特別号

前回紹介時から飛躍を続け、活躍する方を紹介します。

輝く恵那人

◀本紙令和3年10月号では、U-15の日本代表入りした際の思いを紹介しています

大井町出身
柘植 ^{さわ}沙羽さん (18歳)

□プロフィール

サッカーの強豪校、藤枝順心高等学校（静岡県）を卒業し、現在はプロサッカークラブ「ちふれ AS エルフェン埼玉」に在籍中。趣味はアコースティックギターを弾くことで、あみみょんや back number の曲をよく弾く。



▲全日本高等学校女子サッカー選手権大会で仲間と勝利を喜ぶ（中央で両手を挙げているのが柘植さん）



©ELFEN

サッカーの強豪校、藤枝順心高等学校（静岡県）のサッカー部で活躍し、日本女子プロサッカーリーグ（WEリーグ）のクラブ「ちふれ AS エルフェン埼玉」に加入した柘植沙羽さん。
柘植さんは恵那西中学校卒業後、藤枝順心高等学校に進学。サッカー部では、約80人の部員の中から11人のレギュラー枠を1年生から掴み、インターハイや選手権大会に出場してきた。学業では、食に関する知識を学んで、サッカーのための体づくりに生かしたいと、クックデザインスタイルという学科で栄養学や食品学など、食に関する知識や技術を深めてきた。
サッカーで日本一になりたい一心で高校に進学した柘植さん。ボールを使った練習だけでなく、試合で90分間走り続けるための走る練習も行ってきた。1年生の頃は周りについていくことができなかったが、「勝つためには走れるようにならなければ」と休みの日も

自主的にランニングを行い、徐々に体力が付き、走れるようになっていった。他にも、家族や先輩に教わりながらロングパスの練習を行うなど努力を重ね、着実に技術を磨き強くなっていった。
日ごろの練習の成果を発揮し、昨年度の全日本高等学校女子サッカー選手権大会では、目標である3連覇を果たした藤枝順心高等学校。副キャプテンとして仲間を鼓舞し、チームを引っ張ってきた柘植さんは「史上初の3連覇という歴史を作れてうれしい」と振り返る。
現在、憧れのプロクラブで鍛錬を続ける柘植さん。「プロでは今までの経験が通用しないこともある。一から体づくりを行いたい。試合に出て結果を出せるよう、練習を積み重ね、子どものころからの夢、なでしこジャパンに選ばれたい」と話す柘植さんの目は、やる気に満ちた熱い思いであふれている。

夢は「なでしこジャパン」 憧れのプロクラブで夢を追い続ける

2/18

串原中と上之郷中が交流会
地域の伝統を学ぶ



串原中学校で御嵩町立上之郷中学校との交流会が行われました。串原中の生徒は「中山太鼓」を披露し、上之郷中の生徒に太鼓のたたき方を教えました。上之郷中の生徒は「舩五山茶」の紹介と合唱を披露。両校は同世代との関わりの中で互いの地域の伝統を学びました。

2/12

市内最年少・市内初の聴覚障がい者の防災士が誕生



市内最年少の防災士となった北原那砂さん（大井小学校5年）と、市内初の聴覚障がい者防災士となった田口喜久子さん（市聴覚障害者福祉協会事務局）が市長に資格取得を報告。田口さんは「今後はろう者向けの講習会を開き、命を守る知識を広めたい」と意欲を見せました。
※学年は2月12日現在

2/25

明智中で初めて実施
明知城発掘調査に関する授業



地域への誇りや愛着を持ってもらおうと、明智中学校で、明知城跡の発掘調査の成果を説明する歴史授業が行われました。生徒らは講師の話に真剣に耳を傾け、授業の最後には、実際に発掘された出土品に触れ、明知城の歴史を楽しみました。

2/19

地産地消を目指して
山岡中の生徒が献立を考案



山岡学校給食センターの管内の小中学校で、山岡中学校の生徒が考案した献立が提供されました。献立には地元の特産品を知ってほしいなどの思いが込められ、この日は岩村町産の三浦豚などを使ったドライカレーと、山岡町産の細寒天を使った中華あえが提供されました。

3/2

広域ごみ処理施設の基本構想
両市長に報告



本市と中津川市が計画している広域ごみ処理施設の基本構想が策定され、両市長へ報告が行われました。基本構想では、施設の規模や整備スケジュール、事業費や財源計画などがまとめられています。今後、令和15年度の施設稼働を目指して、さらに話し合いが進められます。

2/26

長島小で初めて実施
正家廃寺跡の歴史授業



国史跡、正家廃寺跡の価値を知り、地域への誇りを持ってもらおうと、長島小学校で歴史授業が行われました。講師は正家廃寺保存会の細江和章氏。6年生の伊藤百香さんは「自分たちの町に奈良の都とつながりのある史跡があったと知りうれしい」と話しました。
※学年は2月26日現在